

安楽寺だより 第21号

〒105-0014 東京都港区芝1丁目12-18 電話：03-3451-1509 FAX：03-3798-2238

発行者：藤澤 克己（安楽寺住職） ホームページ：<http://www.anraku-ji.org/>

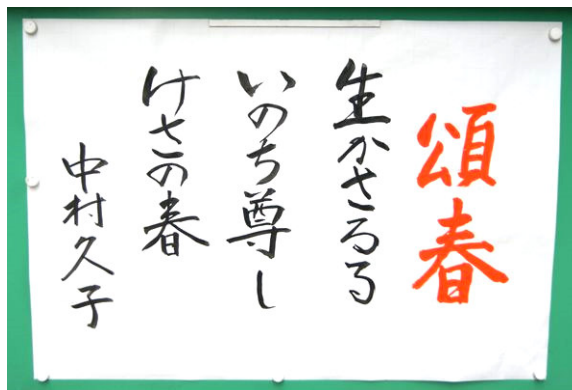
（安楽寺だよりは1月・4月・7月・10月の各15日に発行します）

寒い冬にこそ 春の準備をじっくりと

平成27(2015)年という新しい年を迎えました。いかがお過ごしでしょうか。

正月は凜とした空気に包まれ、気持ちの引き締まる思いがします。よく「一年の計は元旦にあり」と言いますが、節目を大切に自らを振り返り、これからのことに思いを馳せる習慣は素晴らしいと思います。

今年は、人と人との繋がりを大切にして、自分にできることをコツコツと積み上げていきたいと心に思いました。



この時期、木々の枝先をよく見てみると小さなふくらみがあり、春に芽吹くため着々と準備を進めていることが分かります。チューリップの球根は冬の寒さに当たらないと春にきれいな花をつけないそうです。自然は、寒い冬にも春の準備をじっくりとしているのですね。

私たちも、今だからこそすべきことを、為すようにしていきたいものです。



見事な日の出（1月3日 多摩川河川敷にて）

《あれこれ抄》

▼冬の 安楽寺だより」をお届けします▽第1号を発行してから満5年を経ました▽みなさまからの感想が大きな励みです、いつもありがとうございます。▼分厚い雲で初日の出はお預けとなりましたが、翌々日の朝日は見事でした▽清々しい自然の営みに心洗われる思いがします。▼新成人があまり恋愛を求めないというアンケート結果に驚きました▽その原因の一つが人間関係を嫌う世相だそうです▽人付き合いを煩わしいと思っ

安楽寺報恩講をお勤めしました

去る11月10日、安楽寺として最も大切に行っている行事の1つである「報恩講」をお勤めしました。親鸞聖人の遺徳を偲び、そのご恩に報いるための法要です。

参詣のみなさんと「正信偈」を声高らかに唱えました。



引き続き西原龍哉師（松戸市・天真寺）にお取次ぎ（法話）をしていただきました。

テレビアニメのアンパンマンを引き合いに出しながら、本当のやさしさ・いのちの尊さについて分かりやすく話してくださいました。

築地本願寺での帰敬式

阿弥陀さまを敬い、み教えに生きることを表明する儀式を「帰敬式（ききょうしき）」と言います。この帰敬式を受式することで「法名（ほうみょう）」をいただけます。



帰敬式受式の様子(11月12日・築地本願寺本堂)

奥野裕司さん・哲朗さんが築地本願寺での帰敬式で法名をいただきました



「法名」は、必ずしも故人につけられる名前ではありません。仏弟子であることを表す名前です。浄土真宗門徒としての自覚を深める意味でも、できるだけ早い機会に「帰敬式」を受けたいものです。

希望される方は、住職までお問合せを。



【みなさんに正しく知っていただきたい言葉】

本願力（他力） [ほんがんりき（たりき）]

他力本願という言葉が人まかせにするという意味で使われる場合があります、残念です。本当は、阿弥陀さまが私たちが救ってくださる働きを「本願力」といい「他力」と言います。人間の欲望を満たすような願いでなく、あらゆる人を救わずにはおれないという仏さま（阿弥陀さま）の切なる願いのことを「**根本の誓願**」、つまり**本願**というのです。

人まかせにするという態度は時として無責任で、何もしなくても同じと考えるようになりかねません。自分の欲望に歯止めがなくなったり困難な状況の人のことを考えなくなったりします。本来の意味と正反対になってしまいますので、注意したいものです。

年回法要(法事)のご案内

年回法要(法事)は亡き方のご命日を縁としてお勤めする「仏法の行事」です。

ご門徒のみなさまには2カ月前頃に連絡するようにしていますが、今年が年回忌に当たる方はご予約いただければと思います。

平成27年(2015)年回表										
五十回忌	三十七回忌	三十三回忌	二十七回忌	二十三回忌	十七回忌	十三回忌	七回忌	三回忌	一周忌	年回忌
昭和41年	昭和54年	昭和58年	昭和64年 平成元年	平成5年	平成11年	平成15年	平成21年	平成25年	平成26年	亡くなられた年

《なぜ、阿弥陀さまはお立ち姿?》

浄土真宗のご本尊の阿弥陀さまは、必ずお立ち姿でいらっしゃいます。



お仏壇に安置する掛け軸のご絵像であっても本堂のお木像であってもお座りになっておらず、「住立空中尊」(じゅうりゅうくうちゅうそん)といって空中に浮かんでいるお姿です。

何故かと言うと、今まさに私たちを救うために立って働いてくださっているからなのです。

お木像の阿弥陀さまを横から見てみると、少し前かがみ(前傾姿勢)になっています。すぐに手を差し伸べてくださるのですね。



安楽寺本堂の阿弥陀如来を真横から見たところ。前傾姿勢がわかりますか？

【書籍紹介】(「親鸞」「激動篇」「完結篇」の三部作)

『親鸞 -完結篇- (上) (下)』

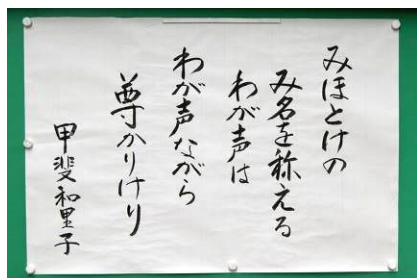
(講談社・五木寛之著・各1500円+税)

親鸞聖人の生涯を描く長編小説の第三部・完結篇が刊行されました。単なる伝記でなく、大筋の歴史的事実を押さえた上で著者が奔放な想像力を働かせ、真剣に信仰を求めた人々の活気溢れる群像劇を展開します。完結篇は、親鸞聖人が最も多くの業績を残したとされる61歳から90歳までの軌跡を描いています。

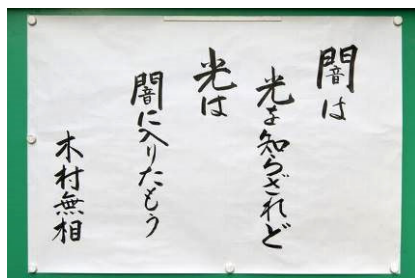


月々の言葉 ～安楽寺 伝道掲示板から～

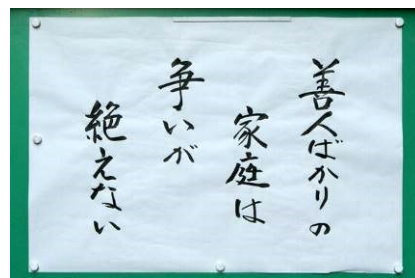
お寺の入り口に、その時々のお寺の言葉を掲げています。(1か月毎)



2014年11月



2014年12月

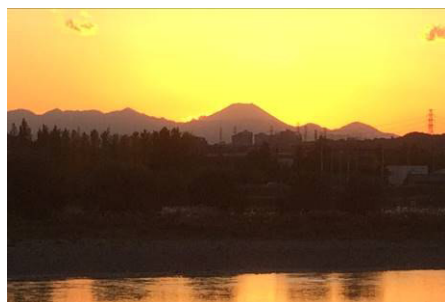


2015年1月

総追悼法要のご報告

昨年一年間に亡くなった方々の合同法要として「安楽寺総追悼法要」を12月23日にお勤めしました。浄土往生された方々のお名前を尊前に奉告し、面影を偲びつつ、自らのいのちの行方に想いをいたしました。

冬の青空は
気持ちよく
澄んでいます
(1月)



冬至の頃の
日の入りは
幻想的でした
(12月)

「芝組連続研修会」の2年目です

浄土真宗や仏教のみ教えに触れることを通し「生かされている私」を共に学ぶ連続研修会(連研)があります。

芝組14ヶ寺が合同で開催するもので、各お寺から数名の希望者を募り、2年間にわたり全12回、テーマごとに講義を聞き、話し合いを重ねていく活動です。

2015(平成27)年の日程 (場所:芝組内寺院)

- 第7回: 2月1日 差別について
- 第8回: 4月5日 平和について
- 第9回: 6月7日 いのちについて
- 第10回: 8月3日 しあわせについて
- 第11回: 10月4日 お寺について
- 第12回: 12月6日 報恩講

(原則として偶数月第1日曜 午後4時～)

昨年からはじめ、安楽寺からは5名が参加しています。今からでも参加したいという方は住職までご一報ください。

「定例法話会」の予定 (毎月第3日曜日 午後2時～)

伝道掲示板の言葉をもとにお話させていただきます。いつでもご参加ください。

1月18日(日) 2月15日(日) 3月15日(日)

※1月から開始時刻が午後2時に変更になります